

心室細動による心肺停止から蘇生後、低体温療法を施行した二例

京都大学医学部附属病院 循環器内科

八幡 光彦、加藤 義紘、多田 朋弥、田村 俊寛、仁木 俊一郎

東谷 暢也、中尾 哲史、早野 護、塩見 紘樹、田崎 淳一、犬塚 康孝

陣内 俊和、土井 孝浩、西山 慶、小笹 寧子、静田 聡、尾野 亘

塩井 哲雄、木村 剛

1 例目 61 歳男性。運動中に心室細動による心肺停止。約 3 分間の脳虚血後 CPR・除細動にて救急外来受診。急性心筋梗塞にて PCI 後低体温療法施行。施行後意識回復、脳高次機能後遺症なく改善した。その後残存病変 PCI 施行し、状態良好にて退院。2 例目 19 歳男性。大学の授業中に心室細動による心肺停止。約 5 分の脳虚血後 CPR・除細動にて救急外来受診。即座に低体温療法施行し、復温後意識回復、脳高次機能後遺症なし。特発性心室細動の診断にて ICD 植え込みを行い退院。心室細動による心肺停止、心肺蘇生後即座に低体温療法を行い、神経学的予後を良好に保てた 2 症例を経験したため、ここに報告する。